

大牟田市立玉川小学校

1 本校のE S Dの特徴

本校区は、大牟田市の南東部に位置し、周りを緑に囲まれたとても自然豊かなところである。昔から農業（稲作が中心）が盛んな地域であり、江戸時代には天領として米を納めていた由緒ある地域でもある。現在も農家が多く、いろいろな農作物が栽培されている。

本校におけるE S Dの取組は、学校教育目標の「自ら学び、豊かな心で明るく健康的な子どもの育成」を受け、本校区の特徴である自然豊かな環境を利用して、その目標を「将来にわたって、持続可能な社会を構築するために、一人一人の児童が『食』が人や環境と深いつながりがあることを知り、『食』を大切にできる心情を育てる」と設定し、「食育」を中心に、「ひと」「もの」「こと」を有効に活用し、地域の特色を生かして『人とのかかわり』を大切にしながら豊かな心を育み、食生活に関心を持ち、心身ともに健康な子どもを育成することをねらいとしている。

さらに、郷土の文化に誇りを持ち、郷土を大切に思う心情を培うために、『食』と関連させて古くから地域に伝わる芸能「米はかり踊り」も、5，6年生を中心に継承していく取組を行っている。

また、本年度で3年目を迎える、同じユネスコスクールの北海道留寿都小学校と「食育」をテーマに全学年で交流も行っている。



2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 1年生「ひとつぶのたねから」

(さつまいもの栽培、留寿都小学校との交流：手紙)

(2) 2年生「ぐんぐんのびろ」

(野菜やさつまいもの栽培、留寿都小学校との交流：いきなりだんご作り)

(3) 3年生「地域の農産物マップ作り、収穫体験をしよう」

(留寿都小学校との交流：みかん)

(4) 4年生 地域の特産物を使って、いろいろなものを作ろう」

(留寿都小学校との交流：イチゴジャム作り、うめジュース作り)

(5) 5年生 「米作りに挑戦しよう」(留寿都小学校との交流：米作り関連、お弁当の日)

(6) 6年生「玉川の自然にふれよう」(留寿都小学校との交流：野草学習、郷土学習)

3 特徴的な活動事例

< 6年生の取組 総合的な学習の時間 単元名「玉川の自然に触れよう」 >

(1) 目標

①玉川小学校の校区の自然の豊かさを感じ、愛着をもつことができるようにする。

②小学校生活最後の学年として北海道の留寿都小学校と交流することで、大牟田市を紹介したり、留寿都村を調べたりすることで、それぞれの地域のよさを知ることが出来る。

(2) 具体的実践

①野草学習について

玉川小学校校区の「ひと」「もの」を活用し、校区在住のネイチャーガイドの方をゲストティーチャーとして招き、玉川小学校周辺を探検しながら、食べられる野草を中心に探し、その後収穫した野草を天ぷらに調理して食べる。



②北海道留寿都小学校との交流について

留寿都小学校との交流については最後の交流になるので、野草学習の取組の報告と、自分達のふるさと大牟田を紹介しようという取組を併せて行う。

以下の視点を与え、レポートを作成させ、留寿都小学校に送りました。

- i 大牟田市の名産や行事などについて調べる
- ii 玉川小学校について調べる
- iii 世界遺産について調べる
- iv 留寿都について調べる

(3) 児童の感想から

- ・大牟田市と留寿都村を比べてみると、海鮮料理の多さにびっくりしました。留寿都は、山の方だけど、海の幸がたくさん食べられるので、北海道では、魚介類が豊富であることがわかりました。大牟田市も、山菜が多く、有明海の魚介類もたくさんあるので、食が豊かだなと思いました。
- ・留寿都は北海道で寒いので、野菜がない土地だと思っていました。調べてみるとじゃがいもや大根、アスパラガスなどが育つことがわかり、わたしたちの土地と同じだと感じました。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・野菜作り、米作り、野草の収穫、調理などいろいろな食材に触れることで、子ども達が食に対して興味を持つことができた。
- ・北海道の留寿都小学校との交流も、本年度で3年目を迎え、先生方も、子ども達も慣れてきて、取組を通して子ども達は留寿都村について、いろいろな情報を得ることで、大牟田市とは違うよさを感じることができるようになってきた。

○課題

- ・取組が教師主導になっているので、子ども達が自ら進んで取り組めるように、子ども達が考えたことを生かして、子ども達の手で活動できるような学習計画や手立てを仕組む必要がある。
- ・北海道の留寿都小学校との交流は、お互いの取り組みの紹介が交流の中心となっていたので、交流によって気づいた「食」と「ひと」との関わりや、新たな疑問点等も、今後学年を追った交流で、解決できるような手立てを考えていく必要がある。